

平成 18 年 6 月 19 日

独立行政法人 労働政策研究・研修機構

(理事長 小野 旭)

担当：職業相談・就職支援部門 主任研究員 室山 晴美

TEL:048-463-1568, URL:<http://www.jil.go.jp>

「職業レディネス・テスト 第3版」の開発 中学生・高校生のキャリア教育支援に向けて

[要 旨]

1. 「職業レディネス・テスト」とは

独立行政法人労働政策研究・研修機構ではこのたび、「職業レディネス・テスト 第3版」を開発したので、公表する。「職業レディネス・テスト」は昭和47年に公表されて以来、中学生、高校生を中心とした若者の職業への準備度 職業レディネス を測り、職業意識を高めるためのツールとして、全国の中学校、高等学校、職業相談機関で広く活用されてきた（年間の利用実績は約30万部）。

改訂にあたっては、全国の中学校38校、高等学校62校の協力を得て、中学生約11,000名、高校生約17,000名に対して、標準化調査を実施し、その結果を考慮し開発を行った。今回の改訂では、時代の変化に合わせて尺度の見直しを行ったほか、生徒が自己採点をしながら自らの職業興味等をよく理解できるようなワークシートを新たに作成した。平成18年7月1日以降、頒布を始め、中学校、高等学校などのキャリア教育の教材、進路指導の材料として活用できるようにする。

2. 内容

この検査は、質問紙によって、「職業興味（その仕事をやってみたいか）」、「基礎的志向性（日常生活行動や意識がどのような方向をさしているか）」、「職務遂行の自信度（その仕事をうまくやる自信があるか）」を測定することにより、進路選択・職業生活への準備状態（職業レディネス）を把握することができる。

3. 特徴

生徒の職業発達のレベルを職業興味、基礎的志向性から多面的に把握可能。

中学生以上に実施できるわかりやすい内容。

自己評価、自己採点方式で心理的抵抗が少なく、実施が容易。

定期的に見直しが行われ、信頼性が高い。

4. 検査のねらいと期待される効果

検査を受けた中学生、高校生からは「やってみたいことは色々あるけれど、仕事としてずっと続けていける自信が持てないものが多いと思った。あくまで好きなこと、情熱を持てることを仕事にしたいので、自分の興味・関心ある分野を今後もじっくり考えていきたいです（中3）」、「心理テストみたいで、なかなかおもしろかった。個人個人の結果から、こんなことがわかる（将来はどんな職業に向いているか）」という判定みたいなものを作ってほしいです（高1）」などの感想が寄せられた。

近年、問題となっているいわゆるフリーターやニートの増加、若者の高い離職率などを背景として、早期から職業意識を高めるための キャリア教育 の充実が求められている。「職業レディネス・テスト」は、生徒に対し、職業選択に不可欠な自己理解と職業理解を深めさせる点で、中学校、高等学校におけるキャリア教育の教材、進路指導の材料として効果的な活用が期待できる。

[概 要]

1．職業レディネス・テストとは

主として、中学生、高校生の進路指導に用いるためのテストである。進路選択・職業生活への準備状態（職業レディネス）を把握し、その準備を促進するための情報を提供することを目的としている。いわゆる 適職判定 を目的とした検査ではない。

2．開発の経緯

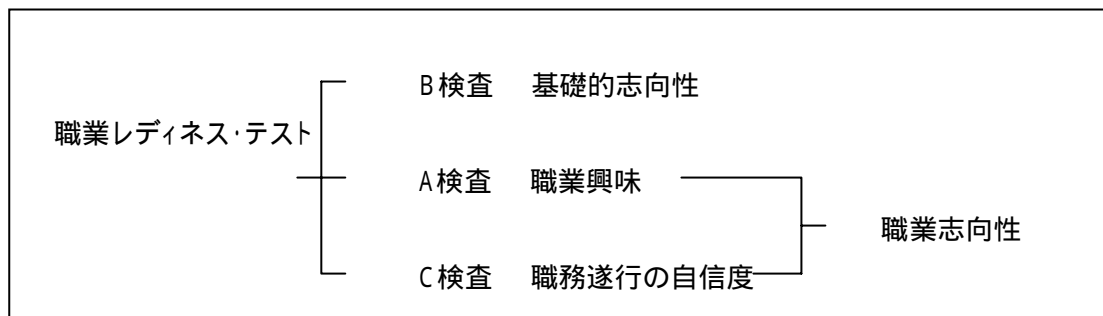
職業レディネス・テストは、昭和 47 年に初版が発行されて以来、中学校、高等学校の進路指導用の検査として広く普及してきた。平成元年に改訂版（第 2 版）が発行されたが、それからさらに 20 年近くが経過した。その間、産業、社会、職業の変化は大きく、若年者の意識、生活、進路の多様化も著しいため、内容を全面的に見直すとともに、新たに全国の 38 中学校、62 高等学校から 2 万 8 千人分のデータを収集、分析し、新しいテストとして開発を終え、公表することとした。

3．職業レディネス・テストが測定するもの

職業に直接関連する「職業志向性」として、職業興味、職務遂行の自信度を測定する。あわせて、日常生活での生活行動や意識の方向に関連する「基礎的志向性」も測定する。

4．検査の構成 図表 1 の通り。

図表 1 職業レディネス・テストの構成



5．検査の様式

検査一式は、手引き、問題用紙、回答用紙、ワークシート（結果の見方、生かし方）で構成。質問紙法の回答形式（自分で質問を読み、回答する。制限時間はなく自分のペースで回答）。

6．問題例と回答方法

(1) A 検査 職業・仕事の内容を記述した 54 項目の質問に対し、興味があるかどうかを「やりたい」、「どちらともいえない」、「やりたくない」の 3 通りから 1 つ選択して回答。

例：ペットの犬の毛をカットしたり、洗ったりする。

< やりたい、 どちらともいえない、 やりたくない >

(2) B 検査 日常生活行動や意識について記述した 64 項目について、「あてはまる」、「あてはまらない」のいずれかで回答。

例：人からよく相談を受ける。

< あてはまる、 あてはまらない >

(3) C 検査 A 検査と同一の項目に対し、自信の程度を3通りから1つ選択して回答。

例：ペットの犬の毛をカットしたり、洗ったりする。

<自信がある、 どちらともいえない、 自信がない>

7. 結果の枠組み

(1) 興味 (A 検査) と自信度 (C 検査) の程度を測定する枠組み

アメリカの心理学者 Holland, J.L. による職業興味の6領域を活用。内容については図表2の通り。

図表2 興味の6領域の内容

領域名	内容
R 領域(現実的興味領域)	機械や物を対象とする具体的で実際的な仕事や活動の領域
I 領域(研究的興味領域)	研究や調査などのような研究的、探索的な仕事や活動の領域
A 領域(芸術的興味領域)	音楽、美術、文芸など芸術的分野での仕事や活動の領域
S 領域(社会的興味領域)	人に接したり奉仕したりする仕事や活動の領域
E 領域(企業的興味領域)	企画や組織運営、経営などのような仕事や活動の領域
C 領域(慣習的興味領域)	決まった方式や規則に従って行動するような仕事や活動の領域

(2) 基礎的志向性 (B 検査) の枠組み

対情報志向、対人志向、対物志向という3つの枠組みを活用。なお、第3版では、対情報志向と対人志向の内容を各3つ、対物志向の内容を2つの下位尺度で構成した。特別集計を行うことにより、それぞれの志向性の中身について詳しく検討できるようになった。内容は図表3の通り。

図表3 3つの基礎的志向性の内容

対情報志向 (D)	データをもとにして考えをまとめたり、計画や文書を作ったり、資料の作成・整理をしたりする活動に関心があること。特別集計として、「情報を集める」、「好奇心を満たす」、「情報を活用する」という3つの観点からの整理が可能。
対人志向 (P)	人の指導をしたり、相談にのったり、交渉をしたり、人や動物の世話をしたりする活動に関心があること。特別集計として、「自分を表現する」、「みんなと行動する」、「人の役に立つ」という3つの観点からの整理が可能。
対物志向 (T)	機械や装置を調整したり、運転・操作したり、自分で物を作り出したりする活動に関心があること。特別集計として「物をつくる」、「自然に親しむ」という2つの観点からの整理が可能。

8. 結果の整理

(1) 回答用紙に書き込まれた答えを整理し、職業興味と自信度は6つの職業領域ごとに、基礎的志向性は3つの志向性ごとに、中学生、高校生、男女別の基準となる換算表を参照し、それぞれ標準得点に換算する。

(2) ワークシート「結果の見方・生かし方」を使って、標準得点をもとに、プロフィールの作成などを行う。ワークシートは、「ワーク1：プロフィールを作成しよう」「ワーク2：プロフィールを分析しよう」「ワーク3：プロフィールを見ながら職業や仕事を考えよう」というステップで構成。

9. 学校での活用方法

中学2年生、高校1、2年生を対象として実施し、進路指導、進路選択の手がかりとしての資料を得る目的で活用される。また、近年、中学校、高等学校における「キャリア教育」が推進されているが、総合的学習の時間における職業意識啓発授業の一環としての実施や「職場体験」の前に実施し、職場選びの参考とするなどの活用が多くなっている。活用のねらいは以下のとおりである。

- 学生・生徒の進路選択への関心・意欲を高める
- 就職希望者が就職先を絞る手がかりとして活用する
- 進学希望者が進学先を検討する手がかりとして活用する
- 職業情報学習の材料として活用する
- 教師の生徒理解・指導方針作りに役立てる

10. 職業レディネス・テストの特色

職業選択に必要な、生徒の自己理解を促すことができる。

生徒が職業に関する自分のイメージをチェックしたり、進路選択への関心を高めることができる。

中学生、高校生の時期の職業意識の発達に個人差を踏まえ、職業的興味を明白に表明できない生徒に対しても、日常生活行動・意識を通して、興味の方向を引き出すことができる。

職業・仕事に対する直接的な好みによる職業興味と自信の程度をあわせて測定することでダイナミックな職業志向性がとらえられる。

回答は選択肢による自己評定の形を取っているため受検が容易で心理的な抵抗が少ない。

一定の年数が経過した時点で、改訂と基準の見直しを行い、心理検査としての信頼性を維持している。

11. 職業レディネス・テスト改訂のための調査を受けた生徒からの感想（例）

- | |
|--|
| * やってみたいことは色々あるけれど、仕事としてずっと続けていける自信が持てないものが多いと思った。あくまで好きなこと、情熱を持てることを仕事にしたいので、自分の興味・関心ある分野を今後もじっくり考えていきたいです(中3)。 |
| * 心理テストみたいで、なかなかおもしろかった。個人個人の結果から、こんなことがわかる(将来はどんな職業に向いているか)という判定みたいなものを作ってほしいです(高1)。 |
| * 質問を通してやってみて、老人問題が出てきた人も、真面目にこのお年寄り関係の仕事、マジでやりたと思った。自分の質問??とかで、よくわかんない所あったけど、だいたい……。でもこれから、人の役立つ事したいです。今は無理だけど、バスゆずったり、重い物持ったりなどは、今でもできるから。今後努力でがんばりたいです(高1)。 |